

私達の力で

釧路地区 厚岸町立真龍中学校 2年 車塚 花瑠香

「はるか、よく障害者と仲良くできるね。好かれてうれしいの？」

これは、私が小学生の頃に何度もかけられた言葉です。私には発達障害を持つ、A君という友人がいます。小学校の六年間、クラスが一緒にとても仲良くしていました。低学年の頃はこんな言葉をかけられたことはありませんでした。

しかし、学年が上がるにつれ、A君に対する酷い言葉が毎日耳に入ってくるようになりました。

「お前、Aと付き合えよ。」

「やだー。障害者と付き合うなんて、マジで無理。」

「障害者って恋をするの？」

こんな心無い言葉を耳にする度に、私はその場から逃げ出したい気持ちになりました。

そんな中、理由もなくA君を蹴り、笑っている人達がありました。「なぜ、こんな酷いことをするんだ！こんなのおかしい！」私は心の中で叫びました。しかし、どんな人よりも私が最低でした。なぜなら、私はA君への差別を目の当たりにしているのに、何も注意できず、見て見ぬ振りをしたからです。何度も私にかけられた言葉に対しても、ただ作り笑いを流してきました。それを注意したら、笑われたり、怒られるからです。そして、今とても後悔しています。「なぜ、周りを恐れて、正しい行動ができなかったのだろう」と。私はこの経験を通して、差別に対して正しい行動とは何かを深く考えるようになりました。

差別はなぜ起こるのでしょうか。それは、自分と違う境遇の人とは分かり合えないと最初から決めつけているからではないでしょうか。誰にだって、努力しても変えられないコンプレックスがあります。もし、あなたがそれを人から馬鹿にされたり、冷たい目で見られたり、酷い言葉をかけられたりしたら、どんな気持ちですか。

差別は自分に関係の無いことでしょうか。どうでも良いことでしょうか。目をそらさないで下さい。あなたの周りにも差別を受け、悲しんで苦しんでいる人がいるはずです。心の底から「そんな人達を救いたい」と思い、行動で示せば差別は必ず無くなります。

私は、A君への差別を無くすための第一歩として、クラスの前でこの主張をしました。「みんなに嫌われるんじゃないか」と思い、本当に怖くて、手足が震えました。でも、誰も怒らないで私の主張を聞いてくれました。その後、クラスの中ではA君に対する差別は聞こえなくなりました。私は正しい行動をすれば、差別は本当に無くなるものだと思いました。だからこそ、今の社会にある差別は無くならないだなんてあきらめてほしくない。今日も社会は差別で溢れています。LGBTの人達に対して、差別や偏見をむき出しにして語る議員がいたり、重度の知的障害を持つ人のことを「心を失った人」と決めつけて、たくさんの尊い命を奪ったり……。互いを認め合う心があれば絶対にこんなことは起きません。

様々な趣味、性格、障害、肌の色、性別……。人は皆違うところがあるのです。違うからこそ面白い。全ての人に素晴らしいところがあるのです。そこを認め合うことが差別を無くすための鍵なのです。

あの時かけられた言葉に、私はこう答えたかった。「A君の障害の部分だけでなく、素晴らしいところに目を向けてほしい！」と。このことをこれからも伝え続けたい。

些細なことで構わない。こんな私だってできたのです。たくさんの人が意識し、行動すれば大きな力になります。私達はそんな力を持っています。障害に対する差別だけでなく、全ての差別を無くしましょう。私達の力で。必ず！